

# 創意工美

高付加価値部品のトップブランドを目指して

謹賀新年

〜気持ち新たに

一年間を邁進する〜



代表取締役  
清水 克洋

## 2021年を迎えて

新年、明けましてお目出度うございます。昨春から猛威を振るう新型コロナウイルスの影響により、先行きの非常に不透明な中で2021年がスタートしました。今回のコロナショックによる日本国内における経済的な影響については、2008年9月に発生したリーマンショックの際の影響と比較されることが多いと思います。リーマンショックの際には今回のコロナショック同様、当社においても売上げの大幅な減少など大きな打撃を受け、企業経営における様々な教訓を得る機会になったと思っています。

しかしながら、この2つの出来事には大きな違いがあると考えています。リーマンショックの際には、発生から半年後の2009年2月に売上げのボトムを記録し、その後は徐々に回復していきましたが右肩上がりに回復していきました。一方で、今回のコロナショックでは発生から既に10か月

が経過しようとしている今日現在においても、第3波による緊急事態宣言が発令されています。1度目の緊急事態宣言による影響ほどではないものの、経済においては更に減速することさえ考えられる状況です。双方を経営者という立場で経験しましたが、今回のコロナショックへの対応の方が、経営の舵取りが難しいと実感しています。

## 関連業界の動向について

そんな難しい状況の中ではあるものの、直近の受注状況においては、昨年末に自社製品である転造ヘッドの大型受注もあり、単月で7,000万円超えを達成することができました。この転造ヘッドの大型受注は、エンドユーザーの事業内容から半導体業界の活況がその要因と考えられます。

半導体関係で言うとKE殿においても昨年より月産100台を超える高い生産規模を引続き維持されています。KE殿の生産に対して少しでもご支援するため、納期の前倒し、短納期対応などのご要望に製造・生産統括・営業の三部門が柔軟に対応しなければいけないと考えています。KE殿のみならず、様々なお客様から頂戴する多くのご要望にお応えしていくことができるかどうか、会社の業績を大きく左右する要因になるのです。

一方で、これまでは半導体業界の特徴として、下期(10月から3月)には生産が活発化し、上期(4月から9月)は落ちつくと言う傾向がありました。今年に関しては、4月以降についても好調を維持するとの情報を得てはいますが、半導体業界だ

けに注力するのではなく、当社が関連する様々な業界の動向やお客様の状況を確認しつつ、営業活動を実施していくことが必要だと考えています。

## 協力工場さんとの連携強化

当社を取り巻く外部環境が大きく変化の中で、お客様から頂戴するご要望に対し、石金精機の製品としての品質・納期・価格でお応えしていくことが求められます。

その対応を実現するために、工作機械部品のリピート品を中心に、お客様のコスト削減に寄与することができるとなると工場の活用や、高い要求精度に対して高品質で対応できる国内協力工場さんへの加工依頼など、国内外の協力工場さんとの連携が重要になります。この連携なしに納期遵守率アップ、納期遅延ゼロ化はないと考えており、内外作の判断を担う社内体制構築を急がなければいけません。

このように当社を取り巻く環境において、動向が急激に変化し、数カ月後には状況が一変している可能性も大いにあると思います。だからこそ、タイムリーに状況を察知し、適切な経営判断、その判断に基づき迅速な対応を実行していくことで、お客様のご要望にお応えして行ければ良いと思っています。

社員の皆さんにおかれましては、様々な面で苦勞を掛けると思いますが、改めて一年間よろしくお願いたします。



# 2021 新年の抱負

- ◆仕事面で実現したいこと
- ◆プライベートで取り組みたいこと



製造一課  
古野さん

## ◆加工技術の向上

私は、3年前に穴あけ研磨BKから汎用旋盤BKに異動してきました。几帳面な性格であり、お客様から要求されている高精度な寸法に対し、一品一品手作業で丁寧に加工する汎用旋盤での作業が、NC機での加工よりも性に合っていると思っています。

汎用旋盤での作業は奥が深く、ま

だまだ覚えることが多くあります。特に、小径材の内径研磨において、加工面をキレイに仕上げる技術を向上させたいと思っています。

## ◆コロナ禍を踏まえた日常生活

プライベート面では、コロナ禍の影響を受け、ステイホームが続いています。個人としてできる感染対策を徹底しながら生活しています。

先行きが不透明な状況ではありますが、コロナが終息した暁には、友人との飲み会や外出を満喫したいと思っています。様々な方が苦労されている状況下において、世の中の状況を踏まえ、自身の行動を判断していきたいと思っています。



製造二課  
栗林さん

## ◆プログラムの仕組みを理解

私は、フライス盤BKからマシンニングセンタBKに異動してきました。フライス盤BKでの経験から、マシンニングセンタでの加工の際、加工方法に対する様々な気付きがあります。その気付きを実際の加工に反映させるためには、プログラミン

グ技術が必要になります。  
当社は、実際の加工を担うオペ

レーターと工程設計を担うプログラマーの分業体制を敷いています。加工現場での気付きをプログラムに反映させるためにも、自身のプログラムに関する知識を高めていきたいと考えています。

## ◆ロードバイクの大会で優勝する

社会人になってからロードバイクを趣味としています。チームに所属しながら、仕事終わりや休日など週5日程度、練習を重ねています。

昨年はコロナ禍の影響で、参加を予定していた大会が全て中止となりました。今年度は、大会が開催されることを祈りながら、参加した際は優勝を目指したいと思っています。



製造三課  
小林さん

## ◆加工技術の伝承

時代の変化に伴い、当社の熟練工を中心とした、職人の手作業による加工技術を伝承していくためにNC機での製作に切り替えていく必要があると思っています。

私が担当する加工においては、砥石片凸Rなどの砥石成形が該当します。現在は、砥石の摩耗状況を踏まえ研削具合を調整していますが、

長年の経験で得た感覚に依存しています。NC機で加工を担えるように、加工条件の設定など準備を進めたいと思っています。

## ◆自由な時間を充実させるために

年齢を重ねていく内に子育てに関わる時間が減り、自由な時間が増えてきました。その時間を活用して、昔からやりたかったことをどんどん実現させています。

まず始めに、カーオーディオの整備に取り組みました。昨年の間に概ね完成することができたので、今後は『ワームでアジヤ青物を釣り上げること』、『溪流など景観が素敵な場所ではバーベキューをすること』、『県外の飛行場において、光の移り変わりや飛行機の離着陸を撮影すること』にチャレンジしたいと思っています。



APS  
柏倉さん

## ◆日々の業務で会社に貢献

私は、日程管理BKからAPSへと異動してきました。事務所作業から現場作業へと大きく役割が変わる中で、コロナ禍による操業短縮も相まって、不慣れな状況が続いています。

今後も、新型コロナウイルスが当社に及ぼす影響を予測することは困難だと思っています。

その状況下において、日々の作業を一杯こなすことはもちろん、一日の作業をどのように効率的・効果的にこなすか、会社に貢献できるかを考えながら従事していきたいと思っています。

## ◆ITツールの利活用

現在、世の中で急速に成長しているデジタル化を日常生活に取り入れていきます。SLACKやKINOTONなどのITツールを活用し、コミュニティの構築やライブ配信を活用した勉強会など国内外様々な世代の方々とコミュニケーションを図っています。

また、コロナの状況を踏まえて、太極拳の指導員の資格取得にもチャレンジしていきたいと思っています。



生産管理課  
堀さん

を密にすることで、今以上に強化されると  
思っています。当社と協力工場さんを行き  
来する私が、情報交換におけるインター  
フェースの役割を担うことができれば、製  
品の納入先であるお客様からの満足度向  
上につながるかと考えています。

### ◆協力工場さんとの連携強化

私は、日程管理BKに所属してお  
り、協力工場さんと当社間における  
材料や製品などの出入荷を担当し  
ています。

今年は、協力工場さんと当社間に  
おける情報伝達を強化したいと考  
えています。

当社のモノづくりにおけるポテ  
ンシャルは、協力工場さんとの連携

### ◆バイク購入&銀婚式

プライベート面では、35年ぶりにバイク  
に乗りたいと思っています。昨年より、当社  
内でバイクブームが起きていますが、その  
流れに私も乗つかりたいと思います。

また、今年も銀婚式を迎えます。妻に感  
謝の想いを伝えられれば良いなと考えて  
います。夫婦2人での時間を大切にしながら  
バイク購入後に、タンDEMツーリングな  
んかができれば良いと夢見ています。

ていきたいと思っています。



技術課  
中村さん

### ◆作業領域の拡大

2020年2月より技術課に配  
属となり、航空機事業における材料  
受注内容の確認や工作カードの作  
成などに従事しています。

今年、これらの作業に加え現在  
村田さんが担っているNC機に取  
り付けるツールを事前にホルダー  
に組み付ける作業を、少しずつでも  
引き継げるように準備を進め

### ◆入社前の体型に戻りたい！

プライベート面では、ダイエットにチャレ  
ンジしたいと思います。

入社10年目となりますが、入社前と比較  
し10キロ以上増加しています。健康診断で  
も指摘を受けており、痩せる必要性を実感  
しています。

しかし、以前に所属していた草野球チー  
ムが参加人数の減少により解散するなど  
ここ数年、運動する機会がめっきり減つて  
きています。

今年、重い腰を上げて、少しずつでも  
運動する機会をつくり、長期計画で以前の  
体重近くまで戻すことができるように頑  
張っていききたいと思っています。

## ●新成人の決意●

多くの方に感謝し、責任感を持ちながら  
様々なことにチャレンジする！

しようか。

その他にも、「成人だから」「大人だから」  
ということやらなければならぬこと  
が、どんどん増えてくると思うので、苦勞  
することが増えるのではないかと、正直な  
ところ成人式を迎えたくないという思い  
もありました(笑)。



APS  
高平さん

### Q. 成人式を迎えた感想

コロナ禍の中ではありますが、私  
の出身地域では、参加者間で距離をと  
つた配置や、成人式後の飲み会を  
開催しないなど、コロナ対策が取ら  
れた中で、無事に成人式が開催され  
ました。

ニュースなどの報道では、成人式  
が中止になったり、オンラインでの  
開催など大きく影響を受けている  
地域が話題となっていたので心配  
ではありましたが、万全の対策を講  
じた上で開催され、うれしく思っ  
ています。

### Q. 今年やってみたいことは？

コロナ禍の影響で、地元の友人たちと成  
人式後の飲み会が開催できていないので、  
終息後は真っ先に仲の良いメンバーで集ま  
り、皆でワイワイしたいと思います。

成人だからというわけではありません  
が、バイクでのツーリングを楽しみたいと  
思います。昨年、父親が乗っていたバイクを  
譲り受け、修理しながら乗っています。昨  
年以上に様々なところに行ってみたいと  
思います。

### Q. 仕事面での抱負

昨年以上に様々なこと  
にチャレンジしたいと  
思っています。現在、三浦  
課長に任せっきりになっ  
ている加工プログラムの  
作成や、加工高向上を目  
指し、NC旋盤の多台持  
ちに関わる能力を強化し  
ていきたいと思っています。

### Q. ハタチのイメージは？

何をやるにしても、責任感を持つ  
必要があるということが真っ先に  
浮かびました。仮に問題を起した  
場合、その問題に対する責任が自分  
自身に返ってくるか、両親に助けて  
もらうかが大きな違いではないで



釣るだけではなく、仕掛けを自作しています！



20年以上続けているイカ釣りが趣味です。子供が小学生の頃に、一緒に遊べることはないかと、釣り道具一式を購入したことがキッカケです。

子供はすぐに飽きてしまったのですが、道具を買った手前、ムダにすることもできず、続けている内にのめり込みました。

開始当初は、針に豆アジを付けて泳がせながらイカを誘き寄せて釣る手法を取っていましたが、餌木と呼ばれる釣り具のブームが到来し私も移行しました。

長年、餌木での釣りを楽しんでいましたが、新たな釣り方をやってみたいという思いから、昨年の秋より「ヤエン釣り」という釣り方にチャレンジしています。この釣り方は富山県内ではあまり浸透していませんが、九州地方では一般的な釣り方

です。イカが仕掛けに反応する「アタリ」の回数や感触、イカが食いついて釣れるまでの過程が餌木とは異なり、辛抱強さが要求されます。しかし、「アタリ」があつてから食いつくまでのドキドキ感などで楽しんでいきます。

また、昨年の10月頃に滑川で釣りをしていた際、同じくヤエン釣りをしていた大学生くらいの子と話をしていると、仕掛けを自作していることを聞きました。自宅に帰ってからネットで調べると、ステンレス棒で製作できることがわかりました。

シーズンオフの11月頃から製作を開始し、試作品を完成することができました。餌木よりもコスト面で安い点と、何よりも自作する楽しさがあり、ますます釣りが楽しくなってきました。

来春のシーズンから試し釣りをを行い、ヤエン釣りの本格シーズンである秋口に備えようと思っております。今からワクワクしています。



寺島さんが自作した「ヤエン釣り」用の仕掛け

お知らせ！

今月号より、社内報の仕様が、『カラー印刷』、『隔月での発行』へ変更となります。次号の発行は3月です。お楽しみに！



石金ニュース!

## 1. 永年勤続表彰15年

製造三課 斎藤さん



入社前に会社見学した際、当時の従業員の方々がイキイキと働き、活気に溢れた職場だと感じました。その職場で共に働いてみたいと思ったのが入社を決め手です。

当社に入社する前はトラックの運転手として、富山県内を中心に青果を運送していました。以前に金属加工業で従事した経験はありましたが、十数年ぶりのモノづくりという事で、入社当初はとても緊張していました。

入社後は、自分で考えることを大切にしてきました。自身の技術に不安を抱えていたので、自分が加工した製品を先輩方に確認してもらいながら、自分が納得するまで取り組むことと続けることで加工技術を磨いてきたと思っています。

当社での勤務を振り返る上で、家族への感謝は欠かせません。運送業から製造業と転職する上で生活リズムが激変しました。その変化にも対応し、生活面で支えてくれたことを非常に有難く思っています。定年退職まで、まだ時間はありますが、仕事と遊びを両立しながら、楽しんでいきたいと思っています。

## 2. 営業課に新たな仲間

営業課 本郷 亮太さん (写真右)

私は、石川県小松市出身の27歳です。大学卒業後に北國新聞の記者として、様々な現場を飛び回っていました。趣味は、バスケットボール観戦とスノーボードです。結婚を機に、妻の実家がある射水市に引越すこととなり、1月度より、当社に入社させていただきましたことになりました。

持ち味は、記者時代に培った粘り強さと軽快なフットワークによる情報収集力です。営業活動は未経験で不安でいっぱいですが、精一杯努力していきたいと思っていますので、何卒よろしくお願いたします！

営業課 谷江 真理子さん (写真左)

以前に1年2カ月程在籍していました。子育てが落ち着いたこともあり社員としてのお声掛けを頂戴し、1年ぶりに復帰させていただきましたことになりました。

趣味は、息子が小さな頃から野球をやってきたこともあり、スポーツ観戦とソーイングです。息子の幼少期の洋服の半分程度を自作するくらい没頭していました。

ブランドもあり、まだまだ分からないことだらけです。少しずつではありますが現場の作業を把握したいと思っておりますので、現場に伺った際は、色々と教えていただければ嬉しいです。

